

## 平成23年度「高校交通教育の実践」モデル校事業報告

|      |  |     |       |
|------|--|-----|-------|
| 学校名  | 千葉県立千葉商業高等学校   | 課程  | ㊦・定   |
| 校長名  | 浅野 達也  | 担当者 | 石井 昭次 |
| 所在地  | 〒 260-0032<br>千葉県千葉市中央区松波 2-22-48<br>TEL 043-251-6335 FAX 043-255-8580         |     |       |
| 生徒数  | 男子：423名 女子：543名 合計：966名  |     |       |
| 通学手段 | 本校は、全県から生徒が通学している。そのため、学校まで直接自転車で通学する生徒（202名）の他、自宅と最寄り駅の間を自転車を利用する生徒も多い。（336名） |     |       |
| 特色   | 千葉市中央区の住宅街に位置し、周辺には高等学校・大学が多く文教地区でもある。千葉県商業高等学校の拠点校として『「千葉商ブランド」を育む』教育を実践している。 |     |       |

## 1 実施状況

## (1) 教科・科目・LHR・学校行事等を活用した交通教育の実践

## ① 1学期

開催日時：平成23年7月14日(木)

対象：全校生徒

テーマ：交通安全教室「被害者にも加害者にもならない交通安全」

講師：千葉中央警察署交通課署員による講話、  
全校生徒が講演を聴いた後、LHRで感想をグループ討議。

※LHR資料としてセーフティ・アクション21を活用

「1. 交通社会人として自覚はできている？」1年生で活用

「9. 違反や事故はあなたの人生設計に影響を与える」1.3年生

・資料として印刷した者を配布し、担任が開設後、感想文を書かせたクラスやグループ討議をしたクラスがあった。

## ② 2学期

開催日時：平成23年11月15日(火)

対象：全校生徒 うち1年生が交通安全関係

テーマ：高等学校安全教育指導者養成講座会場

1年生が交通安全に関する公開LHRを展開

展開指導案は別紙

※資料としてセーフティ・アクション21を利用(クイズ、資料を一部で使用した。)

### ③3学期

開催日時：1月10日(火)

テーマ：「高校生に多い交通事故」

全校対象

- ・DVDの視聴
- ・クラス単位でのLHR

#### 【セーフティ・アクション21を使用】

- ・1年生：自転車に関連する項目を選び活用  
「2. 自転車は歩行者？それとも車両？」  
「7. この画面の中にどんな危険がありますか？」（ただし6は除く）  
の中からクラスごとに選び、展開。  
目的：自転車を利用する機会が多い生徒に対して、自転車に関する交通安全の意識を高めるため。
- ・2年生：危険認知に関連する項目を選び活用  
「6. 車に乗せてもらうのは楽しい。でも危険はある」  
「14. 通学路の危険箇所マップづくり」（ただし9.12は除く）  
の中からクラスごとに選び、展開。  
目的：あらかじめ危険箇所を認知することによって、交通安全意識を高める。
- ・3年生：危険認知に関連する項目を選び活用  
「15. エコロジーと車の運転」  
「21. この画面の中にどんな危険がありますか」  
の中からクラスごとに選び、展開。  
目的：卒業を控えた3年生に普通自動車の運転に関する交通安全の重要性を気づかせる。

## (2) アンケート調査の実施・分析

### ①セーフティ・アクション21を使用したLHRについて

○1学期LHRの感想抜粋

〈生徒〉

- ・まとめクイズの答えは、最初、全くわからなかったが、後で解説を聞いてとても参考になった。（1年）
- ・高校生の交通事故は3分の1以上が加害事故と言うことに驚いた。（1年生）
- ・交通事故が「犯罪」になるとは思っていなかった。（2年生）
- ・罰金と反則金の違いがよくわかった。どちらも払わないように気をつけようと思う。（3年生）
- ・交通事故は本当に怖いと思った。特に相手にも自分にも。（3年生）

〈職員〉

- ・解説がしやすかった。
- ・クイズの量がもっと多くても良い。
- ・コンピュータを使い生徒がどんどん答えられる交通クイズもおもしろいと思う。

### ○3学期のLHR感想抜粋

(生徒)

- ・小学校や中学校でも交通安全の勉強をしたが、まだ知らないことがたくさんあった。(1年生)
- ・自分が被害者になることも嫌だが、加害者になることも嫌だと思った。(1年生)
- ・今年は、交通安全のLHRが多かったが、それだけ、重要なことだと思った。

(2年生)

- ・車の運転には気をつけようと思った。
- ・車は便利だけど、油断すると凶器になるのがよくわかった。
- ・卒業前に車を運転するときの注意がわかりよかった。

(職員)

- ・(セーフティ・アクション21を使い) LHRがしやすかった。
- ・学年ごとに体系化しやすかった。
- ・動画などが入るコンピュータソフトにするとより使いやすい。

### ②学校評価の中の交通安全に関連して

- ・学校評価アンケートの内部評価(生徒・保護者・教員アンケート)の質問項目に交通安全に関するものを含み実施した。
- ・アンケートの項目は、生徒、保護者向けには、自分自身(自身の子ども)及び自分以外の本校生徒が交通マナーを守っているかを問い、職員には本校生徒全体の交通マナーについてアンケート調査を行った(生徒929名、保護者568名、職員64名が回答)
- ・アンケート結果については、HRでの公開やLHRでの討議資料とした。

### 【学校評価内部アンケート集計結果】

| 評価項目                                     | そう思う  |       |      | ややそう思う |       |       | あまり思わない |      |       | 思わない |      |      |
|--|-------|-------|------|--------|-------|-------|---------|------|-------|------|------|------|
|  | 生徒    | 保護者   | 職員   | 生徒     | 保護者   | 職員    | 生徒      | 保護者  | 職員    | 生徒   | 保護者  | 職員   |
| ※保護者に対しては自分の子供の事。<br>※生徒は自分自身の事。         |       |       |      |        |       |       |         |      |       |      |      |      |
| 交通ルールを守って通学している<br>と思いますか。               | 44.9% | 52.7% | 6.8% | 44.3%  | 42.2% | 79.5% | 8.3%    | 4.6% | 13.6% | 2.5% | 0.5% | 0.0% |
| 千葉商の他の生徒は、交通ル<br>ールを守って通学していると思<br>いますか。 | 27.9% | 35.5% |      | 54.2%  | 55.5% |       | 14.4%   | 7.7% |       | 3.5% | 1.3% |      |

《考察》

- ・三者ともおおむね高い評価だが、職員は「ややそう思う」と評価内容が落ちる。
- ・生徒・保護者共に自身(自身の子)より他の千葉商生への評価がやや低い。

### (3) その他

- ・自転車整備状況点検、交通マナー教室 (5/9~5/13、9/5~9/9)
- ・職員・PTA合同校外指導 (10/11~10/14、2/8~2/10 ※2月は職員のみ)

## 2 成果と今後の取組

### (1) 成果

今年度、この事業を本校で実施するにあたり、交通安全LHRをどのように展開するのか、職員の中でも非常に不安があった。しかし、「セーフティ・アクション21」を活用することにより、生徒には非常にわかりやすい内容（クイズ、資料）で展開でき、職員もLHR運営がしやすかった。生徒の交通安全に関する「気づき」も多かった。そのことが保健などの授業や他のLHRの時間にも良い影響を与えた。

LHRを展開する職員の意識にも変化が見られ、「セーフティ・アクション21」からヒントを得て独自の交通安全LHRを展開する例も見られた。

学校評価アンケート結果を「開かれた学校づくり委員会」（学校関係者評価委員会：学校に関係する地域や保護者の代表で構成）で公表し、評価を求めたところ、次のような意見がでた。

交通ルールに関する評価項目があるが、千葉商の生徒は信号無視などもなく、よく交通ルールを守っていると思う。ただ、正門前の広い道でやや横に広がって歩く生徒を見かけることがある。また、テニス場側の幹線道路と下道だが、朝など渋滞の抜け道として車が結構なスピードで下道を走りぬけることがある。気をつけて登校してほしい。

さらにこのことをHPで公表し、LHR等での討議材料とした。学校に隣接した地域の方々の具体的な意見であり、生徒が学校周辺の交通安全を具体的に考えるきっかけにもなっている。特に2年生が3学期に「セーフティ・アクション21」を利用して交通安全に関連する「危険認知」の学習をする際の補助的な役割をした。

安全指導者養成講座での公開LHRでは、全県の生徒指導・安全教育指導者に見学してもらい、「安全に関する様々なLHRの事例を見学でき、非常に有意義であった。」との意見を得た。

「セーフティ・アクション21」をはじめ今回の事業により蓄積したLHR指導案は、サーバーに保存し、次年度以降の交通安全に関するLHR展開の資料となるようにデータベース化した。

### (2) 今後の課題

本校は公共交通機関を利用している生徒が多く、学校近隣での交通事故の心配よりも、自宅から最寄りの駅などに自転車に向かう際の交通事故などが心配である。自転車などの整備不良なども懸念される。今後は、保護者を巻き込んだ交通安全指導に力を入れる必要がある。たとえば、保護者への公開授業の一環で「セーフティ・アクション21」を利用し、「親子で考える交通安全」などの企画を考えてみたい。

一方、本校周辺には交通量の多い道路も多く、また住宅街にあるため道路の見通しも良くない。そのような立地条件から、町内会をはじめとした地域と連携した交通安全教育が重要になる。本校は、町内会との関係も良好であるため、地域の子どもたちに対し、生徒が「セーフティ・アクション21」を利用した交通安全指導をしたり、地域の高齢者を交えた交通安全教室などを実施したりしたいと考えている。

## 公開LHR（安全教育）学習指導案

- 1 実施日時  
平成23年11月15日（火）第3限
- 2 実施クラス  
1年A組（男子29名、女子12名、計41名）
- 3 実施場所  
1年A組教室
- 4 生徒観  
落ち着いて、和やかな雰囲気、真面目に学習に取り組む。
- 5 指導教諭  
萩原 正男
- 6 本時の主題  
普通免許学科試験模擬問題を通して、交通安全を考える。
- 7 本時のねらい  
試験問題を解くことを通して交通安全についての意識を高める。
- 8 本時の学習

|             | 時間  | 学習内容  | 指導上の留意点   |
|-------------|-----|---|---|
| 導<br>入      | 5分  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席確認</li> <li>・ 本時の学習内容を確認する。</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出席確認</li> <li>・ 本時の学習内容の提示</li> <li>・ 問題を配布</li> </ul>   |
| 展<br>開      | 40分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 模擬問題を解く。</li> <li>・ 正解、解説を聞き、考える。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 机間巡視をしながら、全員が作業に参加しているか確認し、指導する。</li> <li>・ 自動車を運転する側から交通安全を考えることにより、自転車や歩行者の交通安全について考える。</li> </ul> |
| ま<br>と<br>め | 5分  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自動車運転者の視点を理解し、今後の交通安全に生かす。</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交通法規を理解し、事故に巻き込まれないように気をつける。</li> <li>・ 異なった視点からものを見る。</li> </ul>                                    |

## 公開LHR（安全教育）学習指導案

- 1 実施日時  
平成23年11月15日（火）第3限
- 2 実施クラス  
1年B組（男子28名、女子13名、計41名）
- 3 実施場所  
第1コンピュータ室
- 4 生徒観  
物事について、真面目に取り組む生徒が多い。
- 5 指導教諭  
D.T
- 6 本時の主題  
交通安全について考える
- 7 本時のねらい  
被害者・加害者の視点から交通安全について考えさせ、交通安全の意識を向上させる。
- 8 展開

|             | 時間  | 学習内容  | 指導上の留意点  |
|-------------|-----|---|--|
| 導<br>入      | 5分  | ○出席確認<br>○本時の趣旨説明   | ○交通事故に関する話題等を導入とし、本時の学習を理解させる。   |
| 展<br>開      | 35分 | ○映像教材の視聴<br><br>○生徒同士で交通事故について考える。<br><br>○交通事故加害者による手記を読み、考えさせる。 | ○真剣に視聴するよう導入部分から配慮する。<br><br>○自分自身に関係がないように考えがちになるので、自分の立場になって考えるよう指導する。<br><br>○加害者の視点に立って、交通事故について考えさせる。 |
| ま<br>と<br>め | 10分 | ○感想を書く。<br>○まとめ   | ○適宜発問を行い、感想を聞く。  |

## 公開LHR（安全教育）学習指導案

- 1 実施日時  
平成23年11月15日（火）第3限
- 2 実施クラス  
1年C組（男子17名、女子23名、計40名）
- 3 実施場所  
化学教室
- 4 生徒観  
明るく元気なクラスで、素直で真面目な生徒が多い。ときには羽目を外しそうになることもあるが、学校行事等は、積極的に参加し楽しむことができる。
- 5 指導教諭  
R.M
- 6 本時の主題  
自転車の安全な乗り方～あなたの反応の速さを知ろう～
- 7 主題設定の理由  
最近、携帯をいじりながら、あるいは音楽を聴きながら自転車に乗る人たちが増えた結果、歩行者と接触する事故が急増し、ときには重大事故につながり、社会問題となっている。そこで、何気なく行っている行為の危険性を理解する。
- 8 本時のねらい  
今回は、簡単な実験を通して、何気なく行っている行為がどれくらい危険な行為になっていくのかを知る。
- 9 展開

|     | 時間  | 学習内容   | 指導上の留意点  |
|-----|-----|--|--|
| 導入  | 10分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席を確認する。</li> <li>・本時の趣旨を理解した後、実験の目的、手順等を把握する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の交通事故に関する話題を導入とし、本時の趣旨を理解させる。</li> <li>・実験の手順を把握させる。</li> </ul>   |
| 展開  | 33分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・班ごとに実験を行う。</li> <li>①一人は右手又は左手を開き、もう一人はその開いた手の間に1mのものさしを持ち、その手を離す。物差しを握るまでの距離を測定し、記録する。</li> <li>②条件を変えて同様に調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア) 音楽を聴きながら</li> <li>イ) 携帯電話をいじりながら</li> </ul> </li> <li>・班ごとに結果のいくつかを黒板に書く。</li> <li>・結果からわかることをまとめる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・この実験は意識しすぎると本来の目的とはなれてしまう結果になることがあるので、自然な形でできるようにする。</li> <li>・各実験台をまわりながら、その場に応じた的確なアドバイスをする。</li> <li>・結果から分かることを、各自に気づかせ、更に自転車の安全な乗り方について、考えさせる。</li> </ul> |
| まとめ | 7分  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の授業で得た知識や、今後気をつけるべきことなどをまとめる。</li> <li>また、感想書く。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で学んだ内容を、今後の生活に生かせるようにする。</li> </ul>  |

## 公開LHR（安全教育）学習指導案

- 1 実施日時 平成23年11月15日（火）第3限
- 2 実施クラス 1年D組（男子17名、女子23名、計40名）
- 3 実施場所 被服教室
- 4 生徒観 明るく活発な生徒が多いクラスである。
- 5 指導教諭 A.F
- 6 本時の主題  
自転車にかかわる安全意識を高める。
- 7 主題設定の理由  
生徒にとり最も身近な交通手段の代表である自転車ではあるがそのルールについては、学ぶ機会もなく知らないことも多いため、交通安全に対する意識も低い。正しい知識の育成を図り、今後の生活の中で、学んだ事柄を生かせるようにしたい。
- 8 本時のねらい  
主に自転車に関する事故の実態を話し合い、どのようなところに危険があるか確認する。また、自転車を運転するときのルールを確認し、安全面についての理解を深める。
- 9 展開

|     | 時間  | 学習内容   | 指導上の留意点   |
|-----|-----|--|---|
| 導入  | 5分  | ○出席確認<br>○自転車運転に関するプリント記入  | ○今までの生活の中で自転車に関して、危ないと感じたことはなかったか、個々に思い出させる。                        |
| 展開  | 25分 | ○4人班で話し合う。その中で最も危険だと思われる行為について、班ごとに発表する。                               | ○どこがいけないのか、どうすればよいのかクラス全体で考えさせる。                                    |
|     | 15分 | ○道路交通法等の法規・罰則のプリントを見て、今までの生活の中で、違反を犯してなかったか、また、なぜこのような法規が作られたかを個々に考える。 | ○プリントの項目を1つずつ確認しながら進める。自転車だけでなく、歩行者でも、携帯やヘッドホンをしての歩行に危険が伴うことを考えさせる。 |
| まとめ | 5分  | ○今回の授業で考えさせられたことを各自の感想の形でまとめる。   | ○自転車は被害者だけでなく、加害者になり得ることも知らせる。                                      |

## 公開LHR（安全教育）学習指導案

- 1 実施日時  
平成23年11月15日（火）第3限
- 2 実施クラス  
1年G組（男子18名、女子23名、計41名）
- 3 実施場所  
1年G組 教室
- 4 生徒観  
基本的にまじめな生徒が多く、男女ともに明るく活発なクラスである。授業における反応もよく、学習に対して、意欲的に取り組む生徒が多い。
- 5 指導教諭  
H.H
- 6 本時の主題  
「自転車の交通ルールと安全な乗り方について」
- 7 主題設定の理由  
身近で、手軽な交通手段として利用されている自転車だが、その交通ルールやマナーについては知らないことも多く、交通安全に対する意識も低い。確認テストに取り組むことにより、正しい知識とマナーを身に付けさせる。
- 8 本時のねらい  
自転車に関する交通ルール・マナーの確認テストを行い、安全な乗り方の理解を深める。
- 9 展開

|             | 時間         | 学習内容  | 指導上の留意点  |
|-------------|------------|---|--|
| 導<br>入      | 5分         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認</li> <li>・本時の趣旨を説明する。</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生の（若者）の交通事故の現状を、統計資料を参照しながら正しく理解させる。</li> </ul>  |
| 展<br>開      | 25分<br>15分 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全テストに取り組む。</li> <li>・解説を聞きながら、答え合わせを行う。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・机間巡視をし、生徒の進み具合を確認する。</li> <li>・1問ずつ解答しながら、解説を加える。</li> <li>・問題によっては、事故の事例などを交え説明する。</li> </ul> |
| ま<br>と<br>め | 5分         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故被害者の手記を読む。</li> </ul>                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車は車両であり、交通事故の被害者になるだけでなく、加害者にもなりうることを理解させる。</li> </ul>                                       |